



L1 ~~AMERICAN~~ PAPER 3 OF 3 WPINDEX COPYRIGHT 2005 THE THOMSON CORP on STN
AN 1984-203890 [33] WPINDEX
DNC C1984-085645

TI Hair growth and restoration accelerator - obtd. by extracting viticis
fructus or magnoliae floss with water miscible organic solvent (mixt.).

DC D21

PA (POKK) POLA KASEI KOGYO KK

CYC 1

PI JP 59116211 A 19840705 (198433) * 3 <--
JP 03060801 B 19910917 (199141)

ADT JP 59116211 A JP 1982-233050 19821223; JP 03060801 B JP 1982-233050
19821223

PRAI JP 1982-233050 19821223

IC A61K007-06

AB JP 59116211 A UPAB: 19930925

The solvent e.g. a prim. alcohol such as methanol, ethanol, propanol and
butanol, acetone, THE or dioxane. Typically, the extn. of the raw material
(100g) is performed three times for two hours each with 1l of solvents.
These extracts are comprised and condensed to dryness under reduced
pressure after filtration; The resultant extract is mixed in a base
material.

ADVANTAGE - The extract stimulates blood circulation around the har
root and thereby elevates its metabolism, and induces no skin irritation.

0/0

FS CPI

FA AB

MC CPI: D08-B03

BEST AVAILABLE COPY

29

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭59-116211

⑬ Int. Cl.³
A 61 K 7/06

識別記号

庁内整理番号
8115-4C

⑭ 公開 昭和59年(1984)7月5日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑮ 育毛・発毛促進料

⑯ 特 願 昭57-233050

⑰ 出 願 昭57(1982)12月23日

⑱ 発 明 者 福島信
横浜市神奈川区高島台27番地の
1 ポーラ化成工業株式会社横浜

研究所内

⑲ 発 明 者 堀川壽夫
横浜市神奈川区高島台27番地の
1 ポーラ化成工業株式会社横浜
研究所内

⑳ 出 願 人 ポーラ化成工業株式会社
静岡市弥生町648番地

明 細 書

1. 発明の名称

育毛・発毛促進料

2. 特許請求の範囲

- 1) 養剤子または辛夷の生薬から水溶性有機溶媒単独またはこれらの含水有機溶媒により抽出した有効成分を一種または二種含有することを特徴とする育毛・発毛促進料

3. 発明の詳細な説明

本発明は新規な育毛・発毛促進料に関するものであり、皮膚刺激のない安全なものである。

従来、育毛・発毛促進料には各種の化合物、生薬等の抽出エキスを適用されているが、顕著な効果を示すものは殆んどなく、またある程度効果を有するものは皮膚炎を起す程刺激が強く連続使用が困難である等の欠点があつたが、本発明者は種々実験研究の結果、このような欠点のない本発明を得たのである。

本発明は、養剤子または辛夷の生薬から水溶性有機溶媒単独またはこれらの含水有機溶媒により

抽出した有効成分を一種または二種含有することとを特徴とする育毛・発毛促進料に関するものである。

本発明に適用される育毛・発毛促進料を得る方法としては、養剤子または辛夷の生薬100gを、例えばノタノール、エタノール、プロパノール、ブタノール等の一級アルコール、またはアセトン、テトラヒドロフラン、ジオキサン等の有機溶媒単独、または前記一級アルコールまたはアセトン、テトラヒドロフラン、ジオキサンを50重量%以上含有する含水有機溶媒1Lで2時間づつ3回温浸抽出する。これら抽出エキスを合わせ(合計3L)、吸引口過後、溶媒を除く為減圧下濃縮乾固し、粘稠状の生薬エキスを得る。得られた生薬エキスをそのまま、あるいは適宜の溶媒等で溶解分散希釈せしめ基剤中に配合し本発明の育毛・発毛促進料を得る。

ここで本発明に係る育毛・発毛促進料の有効成分として含有される養剤子、辛夷の生薬エキスの一種あるいは二種の含有量は0.1~5.0重量%、好

特開昭59-116211(2)

ましくは0.5~2.0重量%である。

本発明に適用される養荊子、辛夷よりの抽出生薬エキスの一種あるいは二種を含有する育毛・発毛促進料は下記の表-1に示すマウスの毛成長の密度を測定する方法即ち試験法1において他の育毛・発毛促進料とされている物質と比較して顕著な効果を示されている。これは前記生薬よりの抽出生薬エキスの成分が毛根を刺激し、毛根周囲の血行をより盛んにし、代謝をより良好にした結果である。

試験法1の簡単な説明

第7週令のddy系マウスを用いて、1群を10匹とし、7群作り、これらの背部の2.0cm×2.0cmの広さに抜毛した部位に検体を0.3gずつ毎日塗布した後、9日目、13日目に当該部位の毛成長の密度を色差計を用いて白色増加度としてとらえ、従来の比較物質(ビタミンE)及びコントロール(95%エタノール溶液)と比較する。

令44才)の円形脱毛症患者に検体を1日3回(1回に3~5g)塗布したところ、約3ヶ月後には脱毛部位に短い毛を生じ6ヶ月後には硬毛となり脱毛部位は消失した。

例 2

試料として養荊子抽出生薬エキスと辛夷抽出生薬エキスを1:1の比率で混合したものを2重量%含有させた95%エタノール溶液を用いた。

頭頂部及び側頭部にそれぞれ2.5cmの脱毛部位を有する男性(年齢36才)の円形脱毛症患者に検体を1日3回(1回に3~5g)塗布したところ、3ヶ月後頭頂部及び側頭部の脱毛部位にうぶ毛を生じ、6ヶ月後には硬毛を生じたが完治までには至らなかった。

例1、例2ともに6ヶ月間の連続塗布による皮膚障害は全く認められなかった。

次に処方実施例を示す。配合割合は重量部である。

実施例1 ヘアトニック

養荊子抽出生薬エキス 2.0

表-1 毛成長の密度の測定

試料	目数	毛密度(色差計のL値)		
		抜毛前	抜毛後	
			9日目	13日目
A	ビタミンE	70.6±1.4	59.3±0.9	63.2±0.8
B	養荊子(マンギン)	69.2±0.6	62.9±1.0	67.2±4.0
C	辛夷(シンイ)	70.3±1.2	64.1±1.4	69.5±2.5
D	95%エタノール	70.1±1.2	59.2±0.8	62.8±1.0

表-1において適用される各検体は、AはビタミンE(比較物質)を2重量%含有させた95%エタノール溶液、B、Cはそれぞれ養荊子、辛夷の95%エタノール抽出により得られた生薬エキスを2重量%含有させた95%エタノール溶液、Dは95%エタノール(コントロール)である。次に臨床試験例を示す。

例 1

試料として養荊子抽出生薬エキスを2重量%含有させた95%エタノール溶液を用いた。

後頭部に直径3cmの脱毛部位を有する女性(年

メントール	0.2
95%エタノール	60.0
精製水	37.8

製法

95%エタノールに養荊子抽出生薬エキス、メントールを溶かしておき次に精製水を加えて製造する。

実施例2 ヘアクリーム

辛夷抽出生薬エキス	1.0
ワセリン	7.0
密ロウ	8.0
クリストール	37.0
乳化剤	5.5
精製水	41.5

製法

辛夷抽出生薬エキス、ワセリン、密ロウ、クリストール、乳化剤を混合して80℃で溶解し、次に80℃の精製水を油相に徐々に加えクリーム状とする。

実施例3 軟膏

特開昭59-116211(3)

荳荊子抽出生薬エキス	0.5
辛夷抽出生薬エキス	1.0
イソプロピルミリステート	10.0
セタノール	2.0
パラフィンロウ	6.0
マイクロクリスタリンロウ	10.0
乳化剤	11.0
精製水	59.5

製法

荳荊子及び辛夷抽出生薬エキス、イソプロピルミリステート、セタノール、パラフィンロウ、マイクロクリスタリンロウ、乳化剤を加熱溶解し、別に70℃以上に加熱した精製水を加えて攪拌し、40℃まで攪拌しながら冷却する。

特許出願人 ボーラ化成工業株式会社

特許法第17条の2の規定による補正の掲載

昭和 57 年特許願第 233050 号(特開昭
59-116211 号, 昭和 59 年 7 月 5 日
発行 公開特許公報 59-1163 号掲載)につ
いては特許法第17条の2の規定による補正があっ
たので下記のとおり掲載する。 3 (2)

Int. Cl. ¹	識別 記号	庁内整理番号
A61K 7/06		8314-4C

7. 補正の対象

明細書の「特許請求の範囲」の欄及び「発明の詳
細な説明」の欄。

8. 補正の内容

(1) 明細書第1項、特許請求の範囲の記載を別紙の
とおり訂正する。

(2) 同第1頁、第20行

「単独またはこれらの含水有機溶媒」なる記載を
「または含水水溶性有機溶媒」と訂正する。

(3) 同第2頁、第1行

「有機成分を一種または二種」なる記載を「生薬エ
キスを少なくとも一種以上」と訂正する。

(4) 同第2頁、第20行

「あるいは二種」なる記載を「以上」と訂正する。

(5) 同第3頁、第3行

「あるいは二種」なる記載を「以上」と訂正する。

(6) 同第4頁、下から5行と4行の間に以下の記載
を挿入する。

「製造例1. 荳蔻子抽出生薬エキス

大阪生薬市場より購入した荳蔻子100gを秤り

平成 2.2.-6 発行

手続補正書

平成1年10月16日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示

昭和57年特許願第233050号

2. 発明の名称

育毛・発毛促進料

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住 所 静岡県静岡市弥生町648番地

名 称 ポーラ化成工業株式会社

代表者 鈴木 常 司

4. 代理人

住 所 東京都港区西新橋二丁目3番2号
ニュー栄和ビル 電話(501)2506番

氏 名 井理士(8931) 大 多 和 明 敏

住 所 同 所

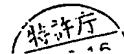
氏 名 井理士(8699) 大 多 和 明 子

5. 補正命令の日付

自発補正

6. 補正により増加する発明の数

なし



とり、これを粉砕機にて20メッシュ程度の粗い粉
末とした後、1gのメタノールで2時間温浸を行い、
その後抽出液をろ過した。この抽出操作を3回繰り
返して得られた抽出液を合わせ、減圧下、40℃
で溶媒を留去し、特有な臭いを有する粘稠な暗褐色
の生薬エキス10.5gを得た。

製造例2. 辛夷抽出生薬エキス

大阪生薬市場より購入した辛夷100gを秤りと
り、これを約5mm幅に細切した後、1gの70V/V
%メタノールで2時間温浸を行い、その後抽出液を
ろ過した。この抽出操作を3回繰り返して得られた
抽出液を合わせ、減圧下、60℃で溶媒を留去し、
特有な臭いを有する粘稠な暗緑色の生薬エキス15.
1gを得た。

製造例3. 荳蔻子、辛夷混合抽出生薬エキス

製造例1及び2で使用した荳蔻子、辛夷それぞれ
を50gずつ秤りとり、製造例1及び2と同様に粉
末化また細切化した後合わせ、これを1gのアセト
ンで2時間温浸を行い、その後抽出液をろ過した。
この抽出操作を3回繰り返して得られた抽出液を

平成 2.2.-6 発行

合わせ、減圧下、40℃でアセトンを留去し、特有な臭いを有する粘稠な暗褐色の生薬エキス12.2gを得た。」

(7) 同第4頁、下から3行

「夏茛子抽出生薬エキス」なる記載の前に「製造例1の」なる記載を挿入する。

(8) 同第5頁、第6行

「夏茛子抽出生薬エキス」なる記載の前に「製造例1の」なる記載を挿入する。

(9) 同第5頁、第6～7行

「辛夷抽出生薬エキス」なる記載の前に「製造例2の」なる記載を挿入する。

(10) 同第5頁、第20行

「夏茛子抽出生薬エキス」なる記載を「製造例1で得られた夏茛子抽出生薬エキス」と訂正する。

(11) 同第6頁、第8行

「辛夷抽出生薬エキス」なる記載を「製造例2で得られた辛夷抽出生薬エキス」と訂正する。

(12) 同第7頁、第1行

「夏茛子抽出生薬エキス」なる記載を「製造例1で

得られた夏茛子抽出生薬エキス」と訂正する。

(13) 同第7頁、第2行

「辛夷抽出生薬エキス」なる記載を「製造例2で得られた辛夷抽出生薬エキス」と訂正する。

2. 特許請求の範囲

1) 夏茛子または辛夷の生薬から水溶性有機溶媒または含水水溶性有機溶媒により抽出した生薬エキスを少なくとも一種以上含有することを特徴とする育毛・発毛促進料。